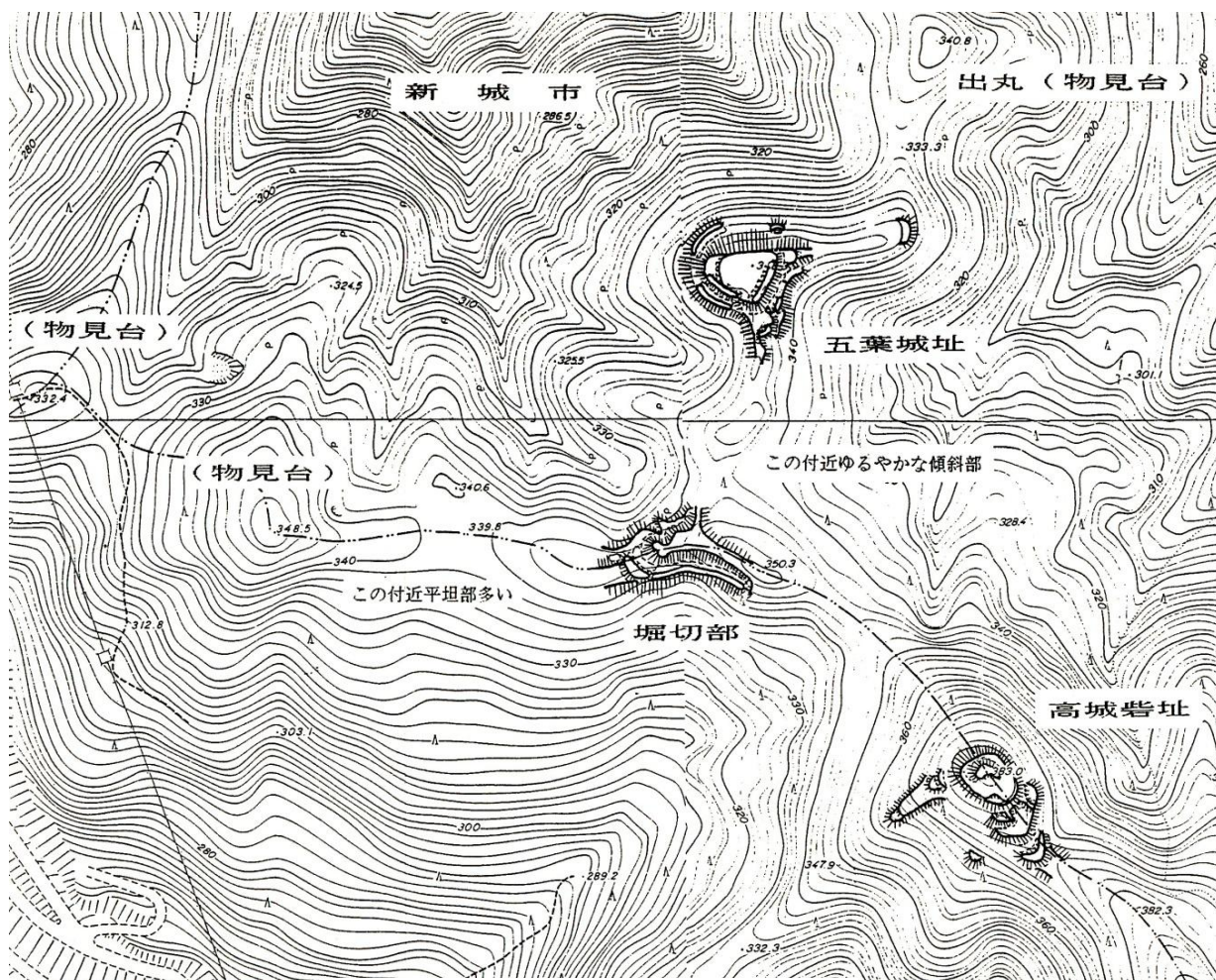


# 五葉城のつくり 1

創建は南北朝時代との説もありますが、明らかではありません。1561年（永禄4）、野田の戦いで今川方に追われた菅沼定盈すがぬまさだみつが高城砦を築いたといわれています。

全体の遺構としては4ヶ所に分かれています。機能的には一つの城と考えられます。五葉城址の一の曲輪はほぼ三角形で、東西35m、南北は14m～28mで北側は絶壁、東・南・西に低い土塁と空濠からぼりがあり、南に一段低く、10m四方の二の曲輪、さらに南100mの尾根に堀切と南東300mに高城砦たかつきとりで及び北東に出丸があります。

出丸に立てば、野田城方面（直接は見えない）、宇利城方面、一宮方面等への眺望がききます。高城砦は五葉城より約30m高いため、五葉城周辺の物見的役割と南東より尾根伝いに来る敵に備えることを担っていたようです。中間に位置する堀切部は、両方の尾根伝いに来る敵に備えるとともに、城・砦の接点としての役割と五本松城への連絡を担っていたものと思われます。



「城」149号：東海古城研究会より